

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	住み慣れた地域の中で、家庭的な雰囲気のもと「その方の持っている力」を最大限引き出して行けるよう理念を作り目標としている。		
2 理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	居間に理念を掲示し、会議の時などに利用者それぞれの力をどのように引き出していけるか話し合っている。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	理念は家族や地域の来訪者が見ることができるよう各ユニットの居間に掲示し、パンフレットにも掲載している。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩時など顔を合わせた時に挨拶を交わしたり、施設内の行事にも近隣の方に声をかけ、夏の花火には子供も含め20名程参加して頂けた。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に加入し、子供110番も掲示している。町内のゴミ拾いや、お祭りに参加したり避難訓練など施設行事にも呼びかけている。		
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	入居相談を受けたり、かけ込み寺となれるよう子供110番にも加入している。		地域の人達を対象に、認知症についての勉強会を開いたり、ボランティアや実習生の受け入れを増やしていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		<p>参加者と日程調整が合わずに開催できないこともあった為、早目に参加者と日程を調整し、行事と一緒に会議を2ヶ月毎に開催していきたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように環境や、環境作りに取り組んで虐待防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		<p>契約時は、十分に話し合う機会を持ち、不安、疑問点があれば契約後も問い合わせに対応している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者が感じることや意見を出来るだけ、話しやすくなるよう話しを聞いたり、話すことが困難な利用者に対しても、表情などから好むことや嫌がることを感じ取るように心掛けている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月の家族への手紙で日々の様子を伝えたり、外出時や病院に受診した時などは、その都度、電話にて報告して、家族の面会時にもお伝えしている。利用者個人の使用した金銭は家族の面会時に確認してもらいサインを頂いたり、面会に来られない時は領収証を郵送している。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	各ユニットの入口前に意見箱を設置している。家族からあった話の内容は、連絡ノートや苦情届けなどに記録し、職員同士も話し合うようにしている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月カンファレンスや勉強会など、話し合う機会を設けて職員の意見を聞き、管理職と職員が話し合えるように、日々の関わりを持ち、意見を反映できるように努めている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の状態に合わせて、早番、日勤、遅番など時間帯を決め勤務調整している。また、毎月のカンファレンスで業務の見直しを行ない、現状の業務内容の変更をかけた時、時間帯に支障がないかを常に話し合っている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動は職員の離職による人員不足の時など、最小限にしている。新しく職員が入ってきた時も、利用者との関係のとれている職員が仲介となり、関係を築くようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		<p>新人職員だけではなく、定期的に職員が自分達の支援を振り返り、見直す機会を持つよう自己評価表を作成し取組んでいきたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		<p>休憩室があり、ユニットから離れて休めるようになっている。また、出来るだけ残業にならないように日々、業務の見直しを行なうことで、職員全体で業務改善に努めている。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>		<p>各職員に利用者担当や係りの役割を持ってもらい、自分達で何をするか考えて行ってもらうことで向上心に繋がるように取り組んでいる。管理職と職員も相談しやすいよう話し合う機会を多く持っている。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		<p>事前に本人と話し合う機会を持ち、家族からも本人の情報を得るなど、不安なことや望まれていることを理解し、安心できる環境作りを心掛けている。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		<p>入所前だけでなく、入所後も家族が不安に感じることを求めていることを、話し合えるように機会を持ち、面会にも来やすいよう呼びかけている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	話しを聞き、本人と家族が不安に感じていること、必要としていることに対してどのような対応方法があるのか緊急性を見極めながら病院や役所など他機関とも連携を取りながら対応している。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	事前に見学してもらい職員や利用者と顔なじみになってもらったり、生活リズムも本人の様子を見ながら、職員や施設側のやり方を押し付けないよう本人のペースを尊重するように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	それぞれができることで役割を持ってもらい、職員と本人が一緒に行うようにしている。料理の方法を教えてもらうなど、職員が一方的にやり方を決め付けずに関係を築いている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族から本人の情報を聞いたり、普段の様子も家族に電話や毎月の手紙にて伝え、家族の思いと同じ様に支援していくことを伝えている。外出や施設内の行事にも家族を呼びかけ動物園外出や行事にも参加して頂いている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族が面会の時には、本人の様子を伝えたり本人の今までの話を聞いたり、ゆっくりと過ごして頂けるように努めている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族だけではなく友人が面会に来られて外出を楽しんだり、手紙を送られてくることもあり、本人の状態に合わせて手紙や年賀状を送ったり、電話で話したりしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	特定の利用者だけではなく、全員で話し合える話題を提供したり、話すことができない利用者に対しても職員が仲介に入り、一緒に話しに加わることで利用者同士の関係が築けるようにしている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所後の移り先に対して、本人の生活習慣や既往歴など情報を伝えて、本人が新しい場所でも暮らしやすいよう関係を大切にしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりから本人の話を聞いたり表情などから本人の思いをくみ取る様になっている。また、自分で意思を伝えられない利用者には、ご家族から昔の様子などを聞いている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	これまでの生活歴を記録物から知るだけではなく、その当時を知る家族や他機関の人達からも情報を得て、その生活を出来るだけ継続していけるように努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	食事や睡眠、入浴時間など本人の心身状態に危険性がなければ本人のペースを尊重して行って頂けるよう取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人と家族との関わりのなかで、思いをくみ取りながらアセスメントをとりケアプランに反映するよう努めている。また、家族(キーパーソン)に毎月ケアプランを説明し、同意書のサインを頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の期間に応じて見直すだけでなく、本人の体調や精神的な変化や、家族からの要望に応じて、その都度、職員間だけではなく家族とも話しをしながらプランを作成している。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	本人の様子だけではなく、どのような支援を提供したのか、又、家族とのやり取りなども、第三者が見てもわかるように記録に残すように努め、申し送りなどでも職員間で話し合っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	訪問診療以外にも、本人や家族の希望する病院へ受診や受診の送迎を行なっている。また、生活保護など要望に応じながら、必要な支援を提供している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	年2回の避難訓練は、消防署に立ち会ってもらい実施している。クリスマスなどイベント時にボランティアに依頼し、音楽演奏会を行っている。また、地域の図書館を利用している。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	利用者の必要性に応じてオムツサービスの利用や訪問理美容を行なっている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議にて、グループホーム内の状況について報告したり、地域包括支援センターの職員から近隣病院のインフルエンザ予防接種の受付状況など、情報交換を行っている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>協力医療機関があり、24時間連絡が取れる体勢があり、週2回の訪問診療でかかりつけ医との関係を築いている。その他、利用者や家族の希望する医療機関の受診も対応している。</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>認知症に関して相談できる協力機関があり、それぞれの状態に合わせて相談したり定期的な受診を行っている。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>24時間連絡がとれる体制になっている。また、医師と看護師が訪問診療時に来た際に相談したり、健康管理記録にて情報を伝えながら、訪問時以外でも電話相談を行い、アドバイスを受けている。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院時、添書を入院先に渡し情報を伝え、入院中も小まめに面会に行き、病院関係者と情報交換をしている。また、早期退院となるようにできる限りリハビリは協力医療機関と連携をとりながら退院後の生活の中で行うよう取り組んでいる。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>入居時から、家族や本人の意向を確認するとともに、本人の状況に合わせて医師から家族への説明をする機会を持っている。また、その都度、家族と話し合う機会を持つように努め、話し合った内容は職員に伝え、職員全員で情報を共有している。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>胃ろうなど常時医療ケアが必要になった場合など、事業所での対応が困難である場合は、医療機関や家族と十分に話し合いながら検討している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	家族、本人とも話し合いながら移り先へ、本人の趣味や生活状況を伝えながら環境が変わることでの負担を軽減できるように努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	目上の方への敬意を大切に、プライバシーや記録についても尊厳を損なわないよう、勉強会を行ったり職員同士話し合っている。また、個人情報に関わる薬の袋等、名前が記載されているものを処分する際にはシュレッターを使っている。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人に選択肢を持った促し方をしたり、言葉だけではなく表情やしぐさからも本人の希望を感じ取り応えられるよう努めている。		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事や入浴など目安となる時間帯は決まっているが、一人ひとりのペースに合わせて、寝る時間や起きる時間なども本人に合わせた支援ができるよう取り組んでいる。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	毎日の服装は、本人と一緒に選ぶようにして、本人が一人では選ぶことができないとしても職員が手伝い考えるようにしている。希望に合わせて、理美容店に行ったり、行事や外出時には女性の場合を化粧をするなど、おしゃれを楽しんでもらえるように努めている。		
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員が献立を作る時は、利用者に希望を聞きながら畑の季節には一緒にホームの畑から収穫している。食事の準備も盛り付けや配膳など、それぞれができることで参加し取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	それぞれの健康状態により、お酒やタバコなど制限のあるものもあるが、おやつや飲み物などはいくつかの中から選んでもらったり、温冷の希望を聞いて提供している。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるように支援している。	排泄の失敗が本人の自信喪失に繋がらないよう排泄表を基に排泄パターンを把握しながら、自らトイレに行けない方は誘導している。また、オムツを使用している方には、オムツや下着の種類を検討すると共に、オムツを使用していてもトイレでの排泄を促している。トイレ誘導時や失禁の際には不快な思いや恥ずかしさを軽減できるように声をかけている。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	本人と相談しながら入浴日や時間帯を決めて、入浴できるように支援している。又、シャンプーや洗顔クリームなど希望に合わせて個人のものを用意している。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	入床、起床時間はそれぞれであるが、日中は活動をしたり休息をしても寝たきりにならないよう、日中と夜間のリズムを保てるように努め、眠れない時には温かい飲み物を提供しながらゆっくと話を聞くなどして休んで頂けるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活歴や家族から本人が好きだったり得意だったことを聞いて、食事作りや畑仕事に参加してもらったり、趣味の歌や書道などの楽しみや役割を持って力を発揮できるように支援している。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的には施設側で金銭の管理をしているが、本人の買い物に行くときには、個人の状態に合わせて支払いを行われたり、支払い後も出納帳を付けて頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩や買い物と一緒に出かけたり、長い時間の外出が困難な場合であっても、ベランダに出て日光浴をするなど外の空気を感じられるように取り組んでいる。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	花見など行事に合わせた外出だけではなく、本人や家族の希望も聞き誕生日外出やお墓参りなど、個人に合わせて外出する機会を持てるように支援している。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	本人の希望に合わせて家族や友人に手紙や年賀状を出したり、電話を繋げれば話せる方には、職員が間に入り話して頂けるよう支援している。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族や友人が訪問された際は、本人の自室などでゆっくりと過ごして頂けるようお茶などを用意している。面会時間の決まりはなく、いつでも来て頂けるように声をかけている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的に勉強会や外部研修に参加し、知識の向上と職員の理解を深め話し合う機会を持つようにしている。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	防犯対策として夜間帯は玄関を施錠しているが、日中は鍵を掛けていない。玄関出入口はチャイム音が鳴るようセンサーが付いており利用者が外に行きたい時には、すぐに気づき付き添うように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中はリビングにて過ごされている方が多いが、自室にて過ごされている方にも活動や飲み物の声掛けに行き様子を確認したり、夜間は定時の巡回だけでなく小まめに所在や安否の確認を行っている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人ひとりの状態に合わせてハサミや包丁などの刃物も職員が付き添い使われている。全て使用を禁止するのではなく、安全に使えるよう取り組んでいる。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	年2回の避難訓練や職員の勉強会を定期的に行い、入居者の心身の状態を理解していくと共に、考えられる危険性を想定し事故防止にも取り組んでいる。また、事故が起きた時は事故報告書を作成し、その日のうちにミニカンファレンスを行ない、事故の振り返りと原因・今後の対応策を話し合っている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	普通救命講習を消防署から研修を受けたり、緊急時対応マニュアルや個人の緊急連絡網を作成している。また、実際に職員の緊急連絡網を使い避難訓練の実践を行っている。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的な避難訓練を行ったり、職員の緊急連絡網があり、訓練時に活用している。また、災害時の避難場所を確認し、町内会や近隣の方々にも一時的な避難場所のお願いをしている。		近隣の方に避難訓練に参加・協力をしてもらえるように今後も案内文と共に声をかけていく。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	家族の面会時や毎月の手紙、病院の受診結果の報告時など、その都度今後のリスク等も含めて家族にお伝えし、話し合う機会を持っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日、午前・午後のバイタル測定を行っている。また、体調の変化にすぐに気付く様に、表情や顔色、汗をかいていないかなど観察を行ない、職員間で情報を共有しながら取り組んでいる。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬は職員が複数確認を行い誤薬防止に努めている。薬の副作用や禁止食も確認していき、薬の変更時は申し送りや連絡ノートで情報が職員全員に伝わるようにしている。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	個人の状態に合わせて下剤の内服も行っているが、水分や食事量のチェック、乳製品や食物繊維の多い食材の提供を行い、体操など体を動かすことで予防できる様に取り組んでいる。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	年に1回、全利用者に無料の歯科検診を行なっている。また、毎食後に口腔ケアを行い、自分で行われる利用者も磨き残しがないか確認しながら、夜間は利用者に合わせて義歯洗浄を行っている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士による献立の基、利用者の既往や食事状態に合わせて味付けや油分を調整したり、食べやすいよう色取りや盛り付けにも配慮しながら、水分や食事を提供し確保できるよう努めている。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルがあり、職員は情報を共有している。また、食事前後やトイレ後、外出時の手洗いうがいや、日中、夜間とも手すりやテーブルなど塩素系の消毒液で消毒を行っている。勉強会などで感染予防について話し合っている。利用者と職員は、インフルエンザ予防接種を受けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理前の手洗いうがいを徹底し、台布巾、食器布巾は使用后すぐに消毒している。テーブルなども塩素系の消毒で拭いている。調理方法も生卵など生ものは極力避け、火を通し、自然解凍も行わないようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1) 居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	スロープがあり、車椅子でも出入りしやすいようになっている。冬期間はロードヒーティングや雪かきをして出入りしやすいようにしている。玄関には季節毎の飾りつけをしたり、玄関横の自動販売機は近隣の方も利用されている。		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	トイレは、共有空間である居間や食堂から少し離れた位置にあり、音や臭いが漏れにくくなっている。室温、湿度は温、湿度計を確認しながら調整し、日差しもカーテンを開閉し調整している。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間でテレビや新聞を見たり、利用者同士お話しされたり、ソファで休まれているなど、それぞれ思い思い過ごせるよう努めている。また、廊下にはソファがあり一人でくつろげる空間がある。		
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族とも相談しながら、本人が長年使用しているベッドなど家具は、使い慣れたものを用意してもらい居心地の良い空間となるように配慮している。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	日中は空気の入換えや、温、湿度計で確認し暖房や加湿器にて調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内の廊下や階段、浴室には手すりが設置しておりバリアフリーになっている。エレベーターも設置してあり車椅子でも移動しやすいようになっている。		
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	各居室や、トイレ、浴室にはそれぞれ表札を用意している。カレンダーや時計も居間や食堂、自室に見えやすいように設置している。また、廊下にはダウンライトとスポットライトがあり、明かりを調整して認識しやすい様になっている。		
87 建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ホーム内の庭に畑を作ったり、暖かい日にはベランダに出て日光浴やお茶を飲んで過ごせるようになっている。		

サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>① ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない</p> <p>日常の関わりを通して、会話や仕草、表情などから思いを察して、希望や意向に 応えられるように努めている。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>① 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p> <p>お茶を一緒に飲んで話をしたり、テレビを見ながらゆっくりと過ごす時間を持っている。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>① ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>食事や睡眠、入浴など、出来るだけ一人ひとりのペースに合わせるようにしている。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>職員が全て行うのではなく、利用者本人の力を活かせる様な支援を心掛けている。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>散歩や買い物、家族との外出、理・美容室など希望や状況に応じながら、外出できるように 努めている。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>① ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>定期的な訪問診療や、体調を崩したり怪我をした時だけではなく、本人の希望や不安に感じて いることは、対応するようにしている。</p>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<p>① ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>一日の生活リズムや家族・友人との外出、お墓参りなど本人の状況や要望に応じて支援して いる。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい 家族の1/3くらい ほとんどできていない</p> <p>小まめに本人の様子を伝えると共に、御家族の抱えている不安や要望は無い話を聞きなが ら関係を築くようにしている。</p>

サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 ③たまに ほとんどない	御家族や友人は頻繁に見えられている。近隣の子供達が敷地内に虫取りにくることもあるが、見学者や地域の人達が訪ねて来られることは少ない。
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている ②少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	運営推進会議と併せて行事も行っており、少しでも施設内の様子を理解して頂けるように取り組んでいる。
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ほとんどいない	担当の利用者や係りなど、それぞれが考えて何かを行う機会を持つことで、やりがいや意欲に繋がるように取り組んでいる。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	自分の要望を伝えることが困難な方もいるが、仕草、表情などからそれに早く気付けるように関わりを持って取り組んでいる。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない	御家族の思いや要望を聞き、話し合いそれに応えるよう取り組んでいる。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 家庭的な雰囲気の中で、慣れ親しんだ生活を続けられるように、利用者一人ひとりの力を活かせるように心掛けている。また、職員の勉強会や研修を設け、各職員と事業所がスキルアップできるように努めている。年中行事など、グループホーム内の様子も御家族や地域の人達に伝え、行事の参加を呼びかけたり、地域行事に参加して交流を深めている。
 (日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)